

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書



- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 愛媛県 】

学校名【 松山市立桑原中学校 】

1 実践テーマ	I・II・ III ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒 474名 教職員32名、PTA若干名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (○ 人権同和教育参観日)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ スポーツの意義や楽しさを学び、より積極的にスポーツに取り組むことで体力向上を図る。</p> <p>○ 自分の夢や目標を達成するために、多くの困難や壁を乗り越えながら、たくましく生きる姿勢を学ぶ。</p> <p>○ 自分の将来や生き方について考えを深め、差別や偏見のないより良い社会を創り上げようとする気持ちを育む。</p>
5 取組内容	<p>○ 人権同和教育参観日として、各学級が授業を公開。</p> <p>○ 授業後の人権集会 本物に出会う授業「パラリンピアンから学ぶ」 矢野繁樹さんの講演</p> <p>1 障がいについて</p> <p>2 パラリンピックから学んだこと</p> <p>(1)1996年アトランタ大会 ・継続は力なり。</p> <p>(2)2000年シドニー大会 ・楽しむ気持ちを忘れないこと</p> <p>(3)2004年アテネ大会 ・いつも一所懸命でいること ・伴走者と走ることは助力を</p>



	<p>得ることではない。 ・2倍以上の喜びや楽しさを得られる。</p> <p>3 「障がいは人と人との間にある」という考え方</p> <p>4 パラ陸上ユニバーサルリレーの紹介</p> <p>5 質疑応答</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策のため、体育館内で換気をしながら、矢野さんに御講演いただいた。また、予定していた伴走などの実演は中止した。</p>  
<p>6 主な成果</p>	<p>生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「部活動をしていて、『嫌だな』『しんどいな』と思うことがたくさんあります。でも、どんなつらいことでも楽しもうとポジティブに考えることが大切だとわかりました。」 ○ 「障がいと向き合うことには、多くの苦勞があったと思います。でも、前向きな考えをもつ矢野さんは私の大きな目標になりました。」 ○ 「『障がいとは人と人の間にある』という言葉が心に残りました。人は誰との間にも障がいがあり、それを埋める、つまり理解し合うことで障がいはなくなる。この言葉は多文化共生社会に最も必要なものだと感じました。」 <p>矢野さんの講演を聞き、生徒たちが、目の前にある困難に立ち向かおうとする気持ちを高めたり、学習や部活動の取組を振り返り、今後の改善や努力を決意したりすることができた。また、障がいという概念を理解することで、お互いを尊重し支え合える、よりよい社会の実現について、考えを深めることができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>人権同和教育参観日に講演を実施することで、参観授業での学習と、講演の内容を繋ぎ合わせ、障がいという概念や共生社会についての理解を深めることができた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>オリンピック・パラリンピック教育の継続方法と教育活動内での位置付けを考える必要がある。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>検討中です。</p>